

北海道医歌人会詠草

老いの子守歌

札幌 古屋 統

新しき歌知らざれば孫どもの子守に聴かす北大寮歌

爺ちゃんが知つてゐる歌は旧世紀尋常小学校唱歌北大寮歌

緩やかに都ぞ弥生の長き歌譜四節なかばで睡りに陥ちぬ

四拾余年前に憶えし歌詞おぼろ「犬の巡査」玩具のチャチャチャ」

「浦島太郎」鞠と殿様」忘るる日養護ホームの床に臥すべく

金婚式

美唄 吉村 誠治

金婚式家族並びし記念写真十一人の真中に坐る

揃いたる十一人の家族にて我が金婚式のパーティー始まる

子二人孫五人が次々と繰出す余興妻と楽しむ

涙出づる迄笑ひつつ時たちぬ足元ふらつき飲み過ぎと知る

宴終え妻と戻りて込み上ぐる共に歩みし五十年思ふ

毗（まなじり）

札幌 山口 康徳

この始球式は絶えて久しと若き宰相日本救はむと決す毗

様々の雑音あるも外国はオリンピックの準備おさおさ

開発の進みためか氣候の故か山を降りたる獣幸あれ

舗道割りて顔を出せる植物凝視め商魂猛き蕎麦屋オープン

人里の畑荒らせし猪のわが肉召せとの声きこゆがに

ジャンプ

札幌 小国 孝徳

大正十三年に茂吉の訪ひしガルミッシュの空を義弟は飛びて来りき

（昭和十一年伊黒正次）

秩父宮に賜はりしカップを一年間下宿屋の床に飾りゐたりき

優勝ジャンプ思ひ出でて眠れる幾度かサゴ椰子の葉もて作れる小屋に

昭和十六年の宮様大会に勝ちたりと言えば驚く有象また無象

秩父宮泊り給ひしヒュツテにも再び行かざりき戦の後を